

【特別支援学校用】

令和3年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立金立特別支援学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 重点取り組みに対しての成果指標はどれも達成できており、各項目に対しての評価はおおむねA評価となった。その中で、アンケート結果からも十分でない項目については、検証を重ね、次年度へと引き継ぎ取り組むことが重要である。 肢体不自由単置校として、教職員一人一人の専門性をどう高めていくかは学校としての課題である。 リモートの授業は、手探りの状態で始まったと言えるが、児童生徒の反応を引き出せているのが確認する必要がある。実践している教職員の実感などを洗い出して、よりよい方法はないか検証していく必要がある。また、今後もICT活用を推進するための職員の技術的な向上を図るための校内体制をより進めていくことが必須となる。 コロナ禍ではあるが、地域とのつながりは重要である。様々な形で交流等ができないか、引き続き模索していく必要がある。
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の一人一人の状況(障害の状態や発達段階、特性)に応じた教育を実践する。 児童生徒が「明るく」「正しく」「たくましく」生きていく力を育成する。
3 本年度の重点目標	<p>「夢に向かって ---- 明るく、正しく、たくましく」</p> <p>(1)児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた教育を充実させる。 (2)自立と社会参加に向けて、児童生徒の夢や希望を大切に教育を充実させる。 (3)健康・安全教育を進めるとともに、思いやりや豊かな心を育む教育を充実させる。</p>

4 重点取組内容・成果指標				中間評価	5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の夢や希望、「思い」を大切に学習した学習が75%以上	・児童生徒の夢や希望、思いを本人及び保護者から聴き取る。 ・日常生活や日々の授業の中で、児童生徒の主体的な考えや「思い」を聴き取る場を意図的に仕組む。 ・PDCAサイクルで実践し、児童生徒の「思い」に沿った学力や生きる力の定着を図る。							教務
	○教育の質の向上に向けた支援機器やICT活用教育の充実	○ICT機器を活用し、効果的な授業の促進ができた回答する職員、保護者が75%以上	・視線入力を用いた授業実践を推進し、表出が難しい児童生徒の授業を充実させる。 ・タブレット端末、電子黒板等を授業や集会活動等で効果的に活用する。 ・児童生徒の実態に合わせて、音声代替装置等のICT機器活用を推進する。							学習・情報
	○将来の自立と社会参加を意識した進路指導の充実	○将来の自立と社会参加を意識した指導がなされた回答する職員、保護者が75%以上	・教職員を対象とした進路研修会や保護者を対象とした進路説明会を行う。 ・将来の自立と社会参加が促進されるような資料を必要に応じて作成し、保護者等に周知する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の充実	○心の教育活動や生命を尊重する教育に取り組むことができていると回答する職員が80%以上	・道徳教育や特別活動、生活単元学習等で、思いやりや豊かな心を育む教育活動の充実を図る。 ・年間1回以上の交流及び共同学習や学校行事等で、他者と関わる経験を多様な体験活動で充実させる。 ・児童生徒会活動の一環として、嬉しかったことや友達の良い所をカードに書き出し、模造紙「えがおの木」に貼り付ける活動を行う。							生徒指導
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について、取り組むことができていると回答する職員が80%以上	・学校生活調査を毎月行う。 ・いじめアンケートを年間2回実施し、教職員間で情報を共有する。 ・児童生徒会役員会で、毎回、児童生徒一人一人が頑張っていることを取り上げ、互いのことを尊重し、認め合う雰囲気を作っていく。 ・いじめに対する教職員の意識啓発のため、研修・会議を年間1回以上行う。							生徒指導
	◎児童生徒が夢や希望を持ち、将来の自立と社会参加に向けて、主体的・意欲的に取り組もうとするための教育活動の充実	○学校評価アンケートにおいて、コミュニケーション能力を従前より高めることができた回答する職員、保護者が90%以上	・交流及び共同学習に積極的に取り組む。(学校間交流、地域交流、居住他校交流) ・校内における挨拶は、教職員から積極的に働きかけ、活発化を図る。 ・夢や希望、思いを育み、自己肯定感を高める授業を実践する。							
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	○タブレット端末やスマートフォンを使う際の約束を守れていると考える児童生徒が80%以上	・「タブレットを使う時の5つの約束」を校内各所に掲示するなど、ほけんだよりや保健指導を通して家庭にも周知していく。							保健
	○感染症予防対策の徹底	○手洗いの手順に沿って児童生徒は手洗いができていると考える職員が80%以上	・手洗い場付近に手洗い手順書「手洗い歌」を提示し、確認しながら手洗いうよう職員へ呼びかけ、児童生徒への指導を行う。 ・感染症予防に関する研修及び保健指導を行う。 ・ほけんだよりで家庭の協力を得る。 ・毎月第3木曜日の職員朝礼を「感染症予防の日」とし、教職員の理解啓発を図る。							
●地域支援	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○公開研修会を実施し、参考になったと考える参加者が80%以上	・外部より講師を招聘し、リモートで研修を公開する。 ・研修ニーズについて、自立活動部や保健部等と連携を図りながら検討する。 ・リモートによる研修方法について、学習・情報部と連携を図りながら実践を重ねる。							相談支援
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ○職員の時給外勤務時間の一月の平均時間が20時間以内とする。(昨年度を維持) ○また、一月の平均時間が20時間以上の人数は一月平均30名以内とする。(昨年度約30名)	・月1回の定時退勤日を完全実施する。期日は学校行事を踏まえ、全校全職員で実践しやすい日を設定する。毎週(月3回)の定時退勤推進日についても、定時退勤について強く推奨していく。 ・新たに稼働が始まった出退勤システムについて、職員室内に掲示するなどして利用定着と意識啓発を図る。 ・業務分担を見直し、業務の効率化と標準化を図る。							管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○自立活動	○「自立活動」の時間における指導の充実	○自立活動に関するアンケートにおいて、指導内容策定までの流れが理解でき、かつ授業に生かすことができた回答する職員が70%以上	・外部講師を招聘し、自立活動に関する研修を行う。その際、教職員に事前アンケートを行い、疑問点やニーズを把握する。 ・授業や指導計画に関する自立活動相談会を定期的に行う。							

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p>
--------------------	-------------------------------